

児童と子どもで工夫して活用しています
GIGA スクール
活用の様子



- 1 理科の授業でお互いの考えを、端末画面を見ながら説明し合っています。
- 2 体育の授業で、走り幅跳びのフォームや距離を端末を使用して確認し合っています。
- 3 画面に送られてきた課題に、実物を操作しながら取り組んでいます。
- 4 町内初の「遠隔交流授業」が、丹那小と桑村小で行われました。
- 5 「交通安全リーダーと語る会」でも ICT 機器は大活躍しています。
- 6 先生たちも効果的な活用を勉強中です。



GIGA スクール構想とは、学校内の高速ネットワーク通信環境と、児童生徒1人1台の端末整備を一体的に行い、質の高い学習を実現させることを目標に、文部科学省が掲げた構想です。町では、令和3年3月までに整備を完了し、各学校で取り組みを始めました。

問合せ／学校教育課(979-8121)

児童・生徒のこえ

【小学生】

- みんなの絵が「ぱーつと」ならんで見られるのがすごい。(小学1年生)
- タイピング練習でローマ字を覚えることができた。(小学3年生)
- すぐに友だちの意見を知れたり、アンケート結果を見たりできるのでとても便利。(小学5年生)

【中学生】

- 友だち全員の意見を見ることができるので参考になる。(社会)
- 電子の動きを自分で動かしながら説明できて、理解が深まった。(理科)
- 正しい発音を何度も聞き直すことができる。(英語)
- 入試の過去問で自分の腕試しができる。



クロームブック貸与式



令和3年4月14日に町内全校をオンラインでつなぎ、教職員の「GIGA 開き」を行いました。この日を皮切りに、各校では学校・学年ごとに工夫した児童生徒向けの「GIGA 開き」が行われました。全員に配布されるクロームブックを大切に扱っていきましょう。「クロームブック貸与式」を行い、一人一人に校長先生から手渡す学校もあれば、学年一斉に教室の大型モニタで「ICT を活用したこれからの教育」について説明し、GIGA スクール構想の意味を浸透させてから配布した学校もありました。初めて端末を手にした子どもたちは「早くこれを使って学習したい」と期待に胸を膨らませていました。

GIGA スクール元年の取組

導入した端末やアプリなど



○導入した端末
世界的に学校での使用に定評のあるクロームブックを導入しました。セキュリティ対策や学習に必要な使い方を避ける設定、フィルタリングなどを一括で行っています。

○導入したアプリなど
グーグルの提供するアプリ
情報共有や課題の提出、小テストなどを行うことができるアプリ、ホワイトボードのように使って仲間と意見を整理するアプリ、アンケートの配布、集計が簡単にできるアプリなどがあります。

○イロノート
先生が子どもの画面に課題を送る、先生に回答を送る、全員分の回答を見るなど、データのやりとりが瞬時にできるアプリです。

e ライブラリ
すべての教科のドリル問題が豊富に収録されています。AI が得意、苦手を判断し、習熟度に合った問題を出題する機能もあります。

主体的に学ぶ子どもの育成を目指して



東中学校
GIGA スクール担当
後藤 卓 教諭

令和3年4月、生徒たちはどきどきしながら、新しい端末「クロームブック」を手にしました。
東中学校では、授業開始前から生徒が自発的にクロームブックを開いて、落ち着いて課題に取り組んでいます。1年間で、クロームブックは「なくてはならない学習道具の一つ」になっています。

授業では、取り組むことを生徒に提示する際も、関連動画や画像を使って、魅力的で効果的な提示が可能になりました。生徒の考えを把握するにも、端末上で瞬時に確認できます。
授業以外にも、アンケート調査や学校行事など多くの場面でクロームブックは活躍しています。令和3年度は「とにかく使って慣れる」ことを目標として取り組みました。今後は、町内各校の実践を共有し合い、主体的に学ぶ子どもの育成をさらに進めていきたいと考えています。